

ハートで語ろう！ふらっとミーティング対話記録

日時 平成21年9月30日 19時～

会場 荒川農村環境改善センター

1 出席者

市民60人、市長、副市長、教育長、市長室長、総務部長、財務部長、健康福祉部参事、環境農林部長、地域整備部長、荒川総合支所長、産業観光部次長、すぐやる担当、事務局

2 事前質問回答要旨

Q：耕作を放棄した土地の固定資産税は、地目課税なのか、現況課税なのか。

A：1月1日の現況で課税しますが、耕作放棄地であっても他の用途に使用していない場合には、農地並みの評価で固定資産税の課税をします。

Q：今後、医療制度や介護制度を、市としてどのように進めていくのか。

A：秩父市の高齢化率は26.1%で県内5位です。市民の健康増進や医療費抑制のために、国民健康保険における人間ドック補助制度の利用者増加や、特定検診、各種がん検診の受診率向上対策を進めていきます。こども医療費については、来年度から中学生までを無料としたいと考えています。また、介護保険料の見直しでは、利用者の増加によって保険料額の上昇となりましたので、被保険者の負担がなるべく増えないように工夫し、サービスを充実できるよう努力していきます。老老介護をする方の支援も進めていきます。

Q：高校、大学を卒業する市民が、秩父に就職しようと思ってもらえるような対策を、市として取組んでいるのか。

A：市内の企業には、優れた技術を持ち、世界で活躍する企業もあります。小学生から大学生に、これらの企業の良さを知ってもらうための施策を行っています。

Q：「花見の里」をもっと利用し、地域の発展と活性化につなげられないか。

A：そば畑以外にも、発想を拡大して誘客を図れるよう対応策を考えていきます。また、地域の皆さんに活用していただけるように、柔軟に対応します。

Q：「花見の里」に遊具を備えた児童公園を設置できないか。

A：地域の方の身近な存在とし、皆さんに活用していただけるように、今後における花見の里の利活用を踏まえて、児童公園の設置も総合的に検討していきます。

Q：そばが連作障害により収穫量が減少しているのので、有機堆肥散布ができる機械の購入を助成してほしい。

A：国・県と相談し、最も効率的な補助事業を探してみますが、そば生産組合の負担もありますので、組合とも調整を行っていきます。

3 対話記録要旨

Q：ドクターヘリを、秩父の人がどれくらい利用しているのか。

A：秩父地域での平成20年の実績は、139回のフライトのうち、約39パーセントを占めます。このヘリは、医療機関からでしか要請できませんが無料です。

Q：以前、特別養護老人ホームに県外の人が入所すると、全体として国民健康保険税の負担が上がる、との記事を新聞で見たが事実なのか。また、その人数は。

A：後期高齢者医療制度が県内一律の保険料となっていますので、その場合でも影響は少ないと思われます。また、こうした方の入所人数は、数を把握していません。

Q：「花見の里」を会場に、周辺農家が持ち込む野菜を売る朝市を開催してはどうか。

A：よい考えだと思います。できるかぎり協力しますので、何でも提案してください。

Q：セミナーハウスのグラウンドを活用できないか。また、合併特例債を使った学校整備は、他の施策とマッチしたものとして実施してほしい。企業誘致を積極的に進めてほしい。「花見の里」を地道に活用してほしい。

A：セミナーハウスの管理は市の所管ではありませんので、すぐやる担当で持ち帰り回答します。

Q：「花見の里」は1億円ほどかかったと聞いている。売上げで回収できた金額は。

A：半額の国庫補助を受けて、約9千万円かかりました。施設での売上げ累計の総額については、手元に資料がありません。地元と調整して一般開放日を増やすなど施策を講じ、増収に向け検討していきます。

Q：「花見の里」に新しい駐車場ができた。稼働率の悪い施設に、公費をつぎ込んで施設整備を行うことは問題がある。その目的は何か。

A：駐車場も兼ねていますが、相互通行できる道路幅に拡張する目的での事業です。

Q：交通量が少ない道路なので疑問が残る。道路拡張するならもっと優先されるべき場所がある。市の厳しい財政状況を考えれば、「ハコモノ」への追加投資を抑制すべきだ。

A：ご指摘のとおりだと思います。こうした点を踏まえ、活用を検討していきます。

Q : 秩父第一中では、危険があるため窓の掃除を生徒にさせていないと聞いた。掃除も教育の一環なので生徒にさせた方がよい。また、給食の自校調理方式を問題視する人には、現場の見学を勧めてほしい。

A : (回答なし)

Q : 出没するサルが農作物を荒らし、不耕作地が広がっている。栗の被害も深刻なので、なんとかないか。

A : サルの被害が甚大なことは認識しています。猟友会のメンバーの育成や確保、防護柵への補助等、さまざまな対策を組み合わせ、被害の防止に努めます。また協議会においても、被害情報の収集、有害鳥獣の行動範囲の把握などを行い、予防対策に一体となって取り組んでいきます。

Q : 被害に悩んでいる人が多いので、有害鳥獣対策については、目に見える活動を行ってほしい。

A : 結果が出せるよう対策を講じていきます。

Q : バイオマス発電所を再始動していく経費に、市民の貯金である基金を利用すると聞いた。基金を使ってまで稼働させる意味はあるのか。

A : この基金は、バイオマス発電のために積み立てられたもので、目的に沿った用途だと思います。県から人件費の助成を受け再始動することで、数年先の民間移管の時期まで、補助金を返還せずに、基金だけで運転することができます。今後、地域の特色を活かして秩父市が生き残る方策として、バイオマスタウン構想を市内全域で展開していきたいと考えています。